

中1ギャップの解消に向けた“小中一貫教育”の取組

ねがい

〈目的〉

中学校を中心に、学校間の連携により様々な取組を行い、中学校入学後の急激な環境の変化に対応できずに、問題行動や不登校生徒の増加など様々な支障が生じる中1ギャップの解消をめざします。

つながり

〈内容〉

● 交流授業

中学校の先生の専門性を生かし、また、中学校の授業のテンポなどに少しでも慣れてもらえればと、23年度から実施しています。23年度は、算数と外国語活動、24年度は、算数と体育のそれぞれ2教科について、月に一度、中学校の教諭がそれぞれの小学校に出向いて授業を実施しています。

● 部活動参観

中学校に入学した際、最も関心があることの一つに「部活動」があります。24年度に、総合体育大会を控えて強化している7月初旬の2日間で、6年生の児童が初めて参観しました。児童は、中学生の真剣な取組に目を輝かせて見学しました。



【放送部を参観している様子】

● 児童会・生徒会の交流会

リーダーの育成と相互の親睦を目的として、23年度から、夏休みに南中学校の生徒会が運営の中心になって開催しています。

24年度は、8月22日の午後で開催し、それぞれの学校のあいさつ運動の取組の紹介や、他校の取組の参考になった点などについて、各校のリーダーにふさわしく、熱心で的確な意見が出されました。



【交流会で協議している様子】

● 生徒指導主事による出前講座

23年度から中学校の生徒指導主事が各小学校に出向き、6年生児童を対象に、中学校入学に際しての心構えや学校生活などについて話をしています。24年度は、全小学校で実施する予定です。

〈成果〉

様々な小中連携の取組により、児童と中学校の距離感が縮められたと感じます。中学生にとっても、後輩たちの訪問などは、よい刺激になっています。また、先生方からも、小学校側からは、「成長した卒業生の姿を見ることができた」と、喜びの声が聞かれました。中学校側からも、入学予定児童の実際の姿を見ることで、次年度に向けた取組に生かすことができます。

高まり